がんばる山高生
～部活動編～

ふう
山田高校
新聞部
第111号

○部活動特集
○地域とつながる山田高校

31年連続全国出場
抱負を聞く

山田高校の部活動の活躍が目立っている。陸上競技部は全国高等学校駅伝競走大会への出場を31年連続で決めた。文化部も精力的に活動しており、美術部は令和２年４月から設置される、探究科のキャラクターである「ペンたん」像を制作し、高校美術展で佳作を受賞した。陸上部と美術部に取材し、全国大会へ向けての抱負や、作品制作にあたっての秘話を聞いた。

全国大会に出場する女子陸上競技部の皆さん

山田高校女子陸上競技部には長い歴史と伝統がある。11月４日、31年連続で全国高等学校駅伝競走大会への出場を決め、今年もその伝統は受け継がれた。主将の中西みゆさんは部員が少なく、出場することができるか不安を感じていた。しかし、チームで気持ちを一つにし、31年連続出場できたことに達成感を感じている。「部員は３年生１人、１年生４人。２年生がいないため、来年は今の１年生が最上級生になる。そうなったときにも陸上部の伝統をたやすことなく受け継いでいくために教えることがたくさんあった。」と苦労を振り返る。中西さんが１年生の頃は、駅伝大会で走ることはなかった。しかし、今の１年生はアンカーや第１区など責任ある区間を任されることもある。中西さんは１年生もプレッシャーの中で頑張っていると後輩たちを思いやる。一人で１年生４人をまとめてきた中西さんからは主将としての貫録が感じられた。「今年の大会は、どんなことが起こるか分からない。けれど、チーム全体でベストパフォーマンスをしたい。」と意気込みを語った。そして「仲が良いだけではなく、悪い所も言い合える仲間になってほしい。４人で団結して、次の学年に伝統をつないでほしい」と後輩への期待も話してくれた。

選手に期待する顧問の永田先生

女子陸上競技部の顧問の永田先生は「今年のチームは、エース、キャプテンともにチームを引っ張ってくれている。１年生はどうなるかわからなかったが、日を重ねるごとにしっかりしてきている。自分の全てを全国で出してほしい。残りの２週間、最後まで頑張ってほしい。」と期待を込めた。

12月22日山田高校女子陸上競技部は全国の舞台に挑む。

山田高校の顔になる
ペンたん像制作秘話

山田高校の正面玄関を入ると高さ約85㎝のペンギンが出迎えてくれる。来年度新たに開設される探究科のキャラクター「ペンたん」だ。「ペンたん」の生みの親は美術の大西先生。

探究科のキャラクターを考える段階では、探究の「究」から九官鳥のQちゃんや豚の探Qぶーちゃんなどの案があった。しかし、どれもしっくりこなかった。そのとき、教頭先生の「山高生はファーストペンギンだ。」という言葉を聞いてピンときたそうだ。「ペンギンでもありなのでは？」と考え、様々な候補の中から、ペンギンをモチーフにした「ペンたん」が誕生した。

ペンたん像を制作した宇田さんと顧問の大西先生

山田高校正面玄関にあるペンたん像は、何事にも挑戦する山高生がモデルになっており、山高生の「真面目さ」「不安」「成長」が表わされている。

ペンたん像を制作した美術部の宇田皆人さんは、顧問の大西先生からの提案を受け、夏休みを返上して制作に励んだそうだ。発泡スチロールと粘土で作られているとは思えないほど、どっしりと構えるペンたんは、希望に満ちあふれた表情をしている。

ペンたん像は高校美術展に出品され、佳作を受賞した。制作した宇田さんは「賞をとれると思っていなかったけど、賞がとれてうれしかった。」と語った。

しおりなどのグッズにもなっているペンたん。来年度も様々な所でペンたんの姿が見られるだろう。令和２年４月、山田高校探究科と共にペンたんは出発する。

地域を明るく元気に
～山高生の活躍～

山高と地域がつながる CM発表会

9月14日、今年も山田高校のCM発表会が行われた。山田高校では毎年1年生が地域の企業のCMを制作し、制作したCMの中から特に優れた作品に賞が与えられる。今年度大賞を受賞したのは、高知新聞山田堺販売所のCMを制作したチームだ。班長である山下はなさんは、今回が初めてのCM制作で、アプリを使った編集に時間がかかり、苦労したそうだ。そして、最も大変だったことについて、「企業の方が紹介したいこととCMを見る人が知りたいと思うこと、そのバランスを考えてうまく構成するにはどうしたら良いか頭を悩ませた。」と語った。

班長として責任感を持って取り組んだ山下さん。アイデアが浮かばなくなったときは、副班長や他の班員も力になってくれ、心強かったそうだ。

大賞をとったときの気持ちを聞くと、「発表会までの学校での評価はいまいちだった。だから、大賞を貰えて本当に驚いた。」と語る山下さんの表情には達成感があらわれていた。

大賞をとったチームはCMの専門家から直接話が聞ける機会が与えられる。山下さんは「将来の夢を実現させるために必要なことを聞いてみたい。」と目を輝かせている。

今年もふらっと中町でCM発表会が開催された

山高生 和歌山でも活躍

11月17日に和歌山県で第3回和歌山県データ利活用コンペティションが開催された。このコンテストでは、「RESAS」等の統計データを用いて、与えられたテーマに対して自分たちのアイディアを発表する。山田高校から2年生の坂東未来さん、野口拓海さんの3人が出場した。チーム名は「山田高校報道部」。今回のテーマは「地域の商店街・中心市街地の活性化」についてだ。坂東さんらは香美市土佐山田町のゑびす商店街に目を向け、香美市商工会や観光協会、市役所の方々から商店街の歴史や取り組みを聞き、地域が一体となることを大切にしたいという思いが浮かんだそうだ。秋に開催されているグルメイベント「香美バル」を取材した際には年配の方が少ないということに気付き、年配の方を対象にした「シルバーバル」を開催できないかと考えた。また、商店街にある「ふらっと中町」で山田高校生による学習支援を行う案も浮かんできたそうだ。他にも若い世代の方に移住をしてもらうなど、様々な視点から活性化について考えられたこの提案は見事予選を通過し、代表の6チームのうちの1つに選ばれた。

「和歌山県で行われた発表は緊張した」と語るのは野口さん。プレゼンテーションを無事に終え、賞も受賞した。野口さんは「少ない人数でオリジナルのアイディアを考えるのはとても大変だった。でも3人で協力し合ってスムーズに進めることができた」と夏休みから取り組んだ活動を振り返り、仲間への感謝も語った。

和歌山県での発表を終え、笑顔の3名

地域の活性化について熱く語る坂東さん(右から2人目)

編集後記

（悠）今回は山田高校の魅力について、記事を書いてみたよ！

（杜）1人で2つも記事を書くのは初めてで大変でした！

（川上）やりがいのある仕事でした！

（悠）そういえば、この前マラソン大会があったよね。

（杜）去年より距離は短いけど大変でした。

（川上）意外に早く走れました。

（悠）来年のマラソン大会も頑張りましょう！

（杜・川上）おぉー！

（悠）今回は山高生の頑張りがたくさん見える記事になりましたね。

（杜）今回取り上げた部活以外にも頑張っている部活は多くあります。

（川上）私たち新聞部も頑張っているもんね♪

（悠）部員は5人で充実してるけど、1人あたりの仕事が多いよね。

（川上）どうやったら、効率よく記事が書けるかな？

（悠）部員がいればいいんだ！

（杜）ということで、

（全員）部員募集中！